

## フトコロの深い人

安倍晋太郎

大平さんの死は「政治家というのは、身体を張っているんだな」ということを世のひとたちに印象づけたと思います。かねて、あまり口かずの多くない人であっただけに、突然の他界が、かえってその政治行動全体を鮮明にし、強烈なイメージを残したといえます。

私は大平さんの晩年に、かなり密度の濃い付き合いをさせていただいた一人だと思っています。私が毎日新聞の政治部記者から外相秘書官、総理秘書官のころまでは、大平さんをそれほど意識することはありませんでしたが、私自身三十三年に政界に出てからは、池田勇人さんの片腕としての大平さんの存在に強い関心を持つようになりました。そして岸内閣のあと、池田内閣が誕生し、大平さんの官房長官としての采配ぶりをみて、この人は相当な人物だと認識を新たにしました。一見茫洋としていますが、政治全般に対する気の配り方、目のつけどころは、当時からすでに大家の風格があり、いずれ大成する人だと思いました。

三木内閣のとき私は初めて入閣し農林大臣になりました。内閣としては国民の政治に対する信頼をいかにして回復するかが最大の課題でありました。私の所管では生産者米価の小幅引上げと消費者米価の大幅値上げという重大な問題に直面しました。米価問題は国民生活の基本にかかわる問題であるだけに私も苦慮いたしましたが、食管会計のアンバランスを是正するためにあえて踏み切りました。ところが物価ニケタ台という情勢のなかでは生産者、消費者両団体からの反発が強く、生産者団体の人たちがコメを投げつけられるという一幕もありまし

た。そのとき大平さんは大蔵大臣でしたが「任怨・分謗」という文字を示して終始私を励ましてくれました。

福田内閣ができて、最初の一年間は大平さんが幹事長、私は国会対策委員長、二年目は大平さんが引き続いて幹事長、私が官房長官という立場でコンビを組むことになりましたが、大平さんは一切を私に任せ、思うようにやらせていただきました。

日韓大陸ダナ協定や予算修正問題など伯仲国会での与野党折衝は複雑で深刻な場面が多く、私も苦労しましたが、大平さんは私のやり方に対してほとんど注文をつけず、黙って見守ってくれました。「フトコロの深い人だ」と私は改めて大平さんの器量の大きさにうたれつつ、福田さんの次はこの人だと確信するようになりました。

五十三年の総裁公選で福田さんが敗れ大平内閣が誕生しましたが、党内のシコリは残り、総選挙後は、ついに四十日抗争へと発展してしまいました。この四十日抗争が終了したのち、私は大平総理の手で政調会長に指名されました。私は政調会長として全力をつくし、一兆円国債減額を貫いた昭和五十五年度予算編成を行いました。当時の国会は与野党勢力が伯仲し非常に難しい面がありました。なんとか順調に審議が進んでいきました。その矢先、私の大平さんに対する個人的な親愛感とは逆に、党内の感情的対立は内閣不信任案可決という事態にまで発展してしまいました。私は当然のことながら大平さんに辞表を提出いたしました。しかしこの辞表は、ついに受理されませんでした。そのとき大平さんは「政局の安定が第一です。安倍さんは大局のみえる人だから、私の決意はわかってもらえると思います」と言われました。

私は大平さんから学ばべきものが多くありました。いま自民党は衆参両院において安定過半数を擁し、八年代の日本の進路について重大な責任を帯びています。だが、この政治的安定は、大平さんの死という貴重な代償をもってあがなったということ、われわれは忘れてはなりません。

（衆議院議員・自由民主党政務調査会長）